シリーズ

山口大学所蔵の学術資産

Yamaguchi University

山口大学は、教育・研究に資するため
これまで貴重な学術資料を多数収集してきました。
その内容は、古文書、古典籍、考古、美術、民俗、鉱物など
多岐にわたっています。
それらを教育・研究の場で活用し、未来へ引き継ぐため
学術資産継承事業委員会において保存・継承活動を行っています。
ここではそうした貴重な学術資産をリレー形式でご紹介していきます。

04. 山口県の暮らしを知る民具

『とえ馬』、『負子』

（山口大学農学部所蔵民俗資料）

農学部が昭和50年代までに収集した資料です。長い間ほこりをかぶっていましたが、近年その整理を進めてきました。その中の資料2点を紹介します。収蔵されているものは学生にとっては初めて見るもので、多くの学生が興味を持ちます。かつての生活用具から人と自然のつながり方を説き起こす大切な役割を持っています。

負子

『とえ馬』

藁製　高さ385×縦340×横140mm
採集地（寄贈者）／下関市川中（秋本和一）

といとい馬、とへとへ馬とも呼ばれる藁製の馬です。トイトイとは小正月に行われる行事で「地福のトイトイ」(山口市地福)は国の指定重要無形文化財になっている。その解説によると「1月14日夜、子どもたちが集落の家々を1軒ずつまわり、持参したワラウマ（藁馬）と供物とを交換し、家内安全や無病息災、五穀豊穣などを祈願する小正月の訪問者の行事である」小正月に水平方向にどこからか神がやってくるという行事は、かつては山口県内でも広く行われていたと思われます。本資料は下関市川中地区でこの行事が行われていたことを示す貴重な資料です。

とえ馬

『負子』（おいこ）

木製　高さ1025×幅244×角高さ440mm
採集地（寄贈者）／山口市（土井彌太郎（蒐集））

背中に背負って荷物を運ぶ運搬具で、道幅が狭く傾斜地の運搬に用いられました。負子は山口地方での呼び名で、専門的には背負梯子と呼びます。日本全国で用いられていましたが、はしご状の部分だけの形のものとはしご部分に角（腕木）がついた形のものと2種類があり、名称も様々で地方色があります。この背負梯子は木の枝をそのまま利用した角付き負子です。梯子部分の足が長いと平坦地での背負い始めと終わりに膝を曲げずに済むので有利ですが、傾斜地で足が長い背負梯子を使うと、取り回し時に周りのものに触り、何より背負い始めと終わりの時に地面の突起物などにあたって危険ですらあります。従ってこの負子は急傾斜地で使用されたことを示します。さて、山口市で急な斜面を持つ山地というとどこになるでしょう。